

未来まちづくり塾

第4回「ファンドレイジング」開催報告

開催日時：

2014年1月17日（金）19:00～21:00

開催場所：

淀川区役所5階会議室

参加者数：

12地活協20名

講師：

特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば 理事長 村井 琢哉 氏

全体の流れ：

19:00 今回の趣旨説明

19:05 山科醍醐こどものひろば 村井琢哉氏による講演
地域で気づいた「やるべきこと」を支えるお金の話
～山科醍醐こどものひろばの事例より～

20:15 個人ワーク『50万円の寄付を集める方法を考える』
各テーブル内で共有、代表者2名によるアイデア発表

20:50 未来まちづくり塾全体のまとめ、修了証授与

21:00 閉会

内容：

未来まちづくり塾第4回目として「ファンドレイジング」をテーマに講座を開催。特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば理事長の村井琢哉氏を講師にお招きし、参加者らが寄付金集めを進めるにあたって押さえておくべきポイントについて学んだ。

山科醍醐こどものひろば 村井琢哉氏による講演 19:05～20:15

・ストーリー感を持ってきっちり伝える

冒頭で、自分たちのまちをどういうまちにしていきたいか、立ち止まって考える時期に来ていると、未来まちづくり塾に共通するテーマを伝えた村井氏。

寄付集めをする前に

- ・「他所もやっているから」ではなく、なぜその活動をしているのか、
- ・どういう課題を解決するために、誰からの支援が必要なのか、

活動の背景も含めてストーリー感を持ってきっちり話せること、聞いた側が自分ごととして受け止める「実感を与える広報」をしていくことを強調。

「1,000万円あるお金をどう使うか」ではなく「0からどう積み上げていくか」の発想を持つことが大切だと参加者に語りかけた。

また、伝える過程で気を付けることとして、「これだけ困っているから助けてほしい」とだけを相手に伝えても、泥舟にお金を出す人はいない。お願いする相手に活動の展望や希望も合わせて伝えることが大切だと説明をされた。

・寄付をもらうための納得感と関係性

寄付は活動趣旨の賛同によって集まるので、自分たちが必要だと考える活動に対し自由に使えることに良さがあるという村井氏。続いて寄付をもらうための納得感と関係性について触れられた。

寄付をもらうためには、

- ・いくらのお金で何に使う（使った）のか、
 - ・いくらのお金で何ができた（できる）のか、
- 集まったお金と成果のバランスに納得感があることが大切。

寄付をお願いする相手との関係性ができていれば財布を開けてもらいやすくなるのお話に、参加者は聞き入っていた。

・どうやって寄付を集めるか

最後に、寄付を集めるためには、どれだけお願いできる相手を増やせるか、お願いするための準備・計画が重要で、寄付集めにあたって団体内で同意を得ておくことや、アプローチする人に応じた方法の検討、関係者リストを作成し、働きかけの範囲を広げるなどの方法についても説明をされた。

中でも強調されていたのは、支援を求めているところにわざわざ支援してくれる人はいない、「寄付は動かないと集まらない」ということであった。

個人ワーク『50万円の寄付を集める方法を考える』 20:15～20:50

「ここまでの内容で、何か質問はありますか？」という村井氏の問いかけに静まり返る会場。寄付の押さえるべきポイントや、動かなければ集まらないことも分かった。しかし「動く」といっても、具体的にどこから手を付けたら良いのか。

その声なき質問の答えとして提示されたのが、「総額 50 万円を集める方法」をお題に事業の目的（テーマ）を設定し、誰に対していくらずつ、いつまでに、どうやって、誰がお願いするかを考える、個人ワーク[表 1]であった。

	対象 1 :	対象 2 :	対象 3 :	対象 4 :
目的				
だれに？				
いくら？	円× 人	円× 人	円× 人	円× 人
いくら？ (総額)	50 万円			
いつまでに？				
どうやって？				
だれが？				

表 1 個人ワークで使用したシートの内容

盆踊りなど普段の地域活動をイメージして「地域役員何人からいくらずつ、各町会からいくらずつ…」とつぶやきながら堅実に計算していく方が多い中、ユニークなアイデアでグループを盛り上げた 2 名の方に全体での発表をお願いした。

最初の発表は「地域の公園に桜を植えよう」がテーマ。

公園に桜の木がないので、地域の小学生から一人 50 円ずつ集め、足りない分を保護者や地域住民に呼びかけて集めることで、子どもに地域への愛着を持ってもらうこと、子どもを通じて保護者や他の地域住民を地域活動に巻き込むきっかけにしていきたいとの提案をされた。

2 番目の発表は、子どもが参画した地活協「コチカツ」の構想について。

子ども達が考え選定した「地域ブランド」を商標登録し、商店等と協力して地域ブランド付商品を作り、その販売益の一部を地活協の自主財源とする提案がなされた。

子どもの主体的参加につながる 2 つの提案を受けて、それまで難しい顔をしていた参加者の表情は緩み、村井氏がおっしゃっていた「ストーリー感を持つて伝えること」の意味が会場全体に伝わったと感じられた。

2014年1月28日
淀川区まちづくりセンター支部

未来まちづくり塾のまとめ・修了証授与 20:50～21:00

最後に、浜辺アドバイザーが未来まちづくり塾参加者への感謝と期待を述べた後、今後も2月14日（金）と3月14日（金）に集まる場を設定できればと提案した。

その後、淀川区まちづくりセンター発行の修了証を、まちづくり支援員らが参加者一人ひとりに手渡し、講座を締めくくった。

講座の様子：

